

ボランティアチームやまぼんず

～子供を対象とした森林教室の実施～

三陸北部森林管理署久慈支署（ボランティアチームやまぼんず） ○中村拓哉
久保翔太郎

1. はじめに

（1）活動の背景

業務で森林教室を実施した際に、「自身で歩くことが難しいお年寄りや体の不自由な方々にも森林教室を提供できないか」「自然はすばらしいという知識だけが先行し普段から自然に触れている子供はわずかなのでは」と感じるようになりました。

そこで、平成27年に東北森林管理局管内若手職員で「ボランティアチームやまぼんず」を結成。室内で森林浴を体験できる「バーチャル森林浴」（写真-1）と、子供が森林に興味を持つきっかけ作りとして「木工教室」（写真-2）を考案し、休日を利用して様々な活動に取り組んできました。



写真-1 バーチャル森林浴



写真-2 木工教室

（2）目的と仮定

活動を続けていく内に、イベントや保育園を中心に実施依頼をいただくようになったことで、平成29年～30年では「子供たちが森林に興味を持つきっかけを作る」ことを大きな目的とし、取り組んでいくこととしました。

さらに目的達成のため

- ① 五感に働きかける
- ② 記憶・形に残るものを提供する

以上の2点を重点に置くことで、「森林に興味を持つきっかけを作るだけでは無く、興味を持ち続けてもらえるのではないか」と仮定しました。

2. 活動内容

ここからは実際に取り入れたプログラムを紹介していきます。

(1) バーチャル空間を使った動物クイズ



写真-3 動物クイズの様子

バーチャル空間のスクリーンを使い、センサーカメラで撮影された動物の映像を投影したり、鳥の鳴き声を聞いたりしてクイズを出題します(写真-3)。

クイズの後は、熊の毛皮やシカの角を触るほか、クロモジのにおいを嗅いでもらうなどし、触覚、聴覚、視覚、嗅覚といった様々な面で子供たちに働きかけます。

(2) 水源の森ジオラマ作り



写真-4 水源の森ジオラマ

ケヤキの木の皮やモミの葉などを使い、ジオラマを作るプログラムです。(写真-4)

森林を再現することで、森林への興味をかき立てるほか、森林の公益的機能を理解して頂くツールとなればと取り入れました。

(3) 焼き板キーホルダー作り

木片の表面を焼いたあと、ブラシ等で表面を磨くことで綺麗に浮き出る木目に着眼した木工です(写真-5)。浮き出る木目により子供たちの視覚、触覚に働きかけるプログラムです。また木材を焼く際はロケットストーブという物を使い、木を燃料とすることで木の様々な使い道を知ることができるよう工夫しました。(写真-6)



写真-5 焼き板キーホルダー



写真-6 木材をロケットストーブで焼く様子

(4) 森林官の職業体験

森林教室以外の取り組みとして職業体験をメインとするイベントにも出展し、森林官の主な業務の1つである収穫調査を模して測樹をしてもらいました。(写真-7)

独自にやまぼんず復命書(図-1)を作り、樹高や胸高直径、木に触れた感想などを書いてもらい、山を最前線で管理する森林官という職業を理解してもらう良い機会となりました。



写真-7 イベントでの測樹の様子

調査日時		調査員	調査員
調査場所		弘前聖愛高等学校	
木の種目はどっち？		針葉樹・広葉樹	
木の直径	cm		
木の根のとちよう			
木の長さ	m		
葉っぱのとちよう			
かんそう			

図-1 やまぼんず復命書

3. 結果

2年間でイベントや保育所などで計7回森林教室などを実施してきました。(表-1) これらの取り組みを評価するため、岩手県久慈市長内小学校学童保育で児童47人と先生8人へ、岩手県野田村保育所では保育士2人へアンケートを実施しました。

表-1 2年間の活動状況一覧

時期	イベント名
平成 29 年 2 月	ビジターセンターがやってきた！ In 青森市
平成 29 年 8 月	久慈川まつり
平成 29 年 11 月 平成 30 年 1 月	久慈市長内小学校学童保育所森林教室
平成 30 年 2 月	ビジターセンターがやってきた！ In 青森市
平成 30 年 9 月	野田村保育所森林教室
平成 30 年 10 月	キッズハローワーク

(1) 学童保育児童47人からの回答 (図-2)

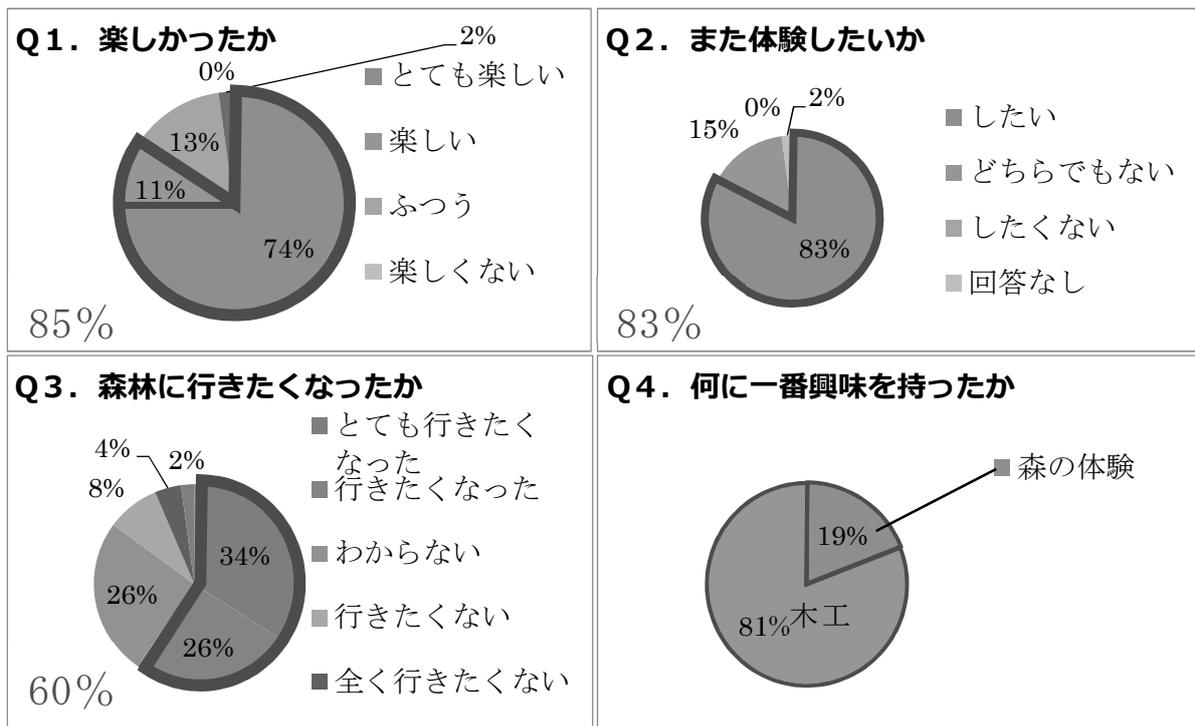


図-2 児童へのアンケート結果

1 番の「森林教室は楽しかったか」という問いでは、85%が「楽しい」「とても楽しい」と回答。また、83%が「また体験したい」と答えました。しかし、3 番の「森林に行きたくなかったか」では行きたくなかったと答えた割合が60%と1 番 2 番の回答とは差が出ており、「何に一番興味を持ったか」では木工教室が約80% を占める結果となりました。

さらに子供たちへ自由に感想を書いてもらったところ、「家でも工作をしてみたい」「動物や森のことを知ることができた」「森に行きたくなった」「お兄さんたちと森に行ったみたいで良かった」といった感想をいただきました。

(2) 学童保育の先生・保育士の回答

肯定的な回答が非常に多く、「子供たちの反応が予想以上に良かった」「貴重な体験であった」といった理由から、全員が「実施して良かった」と回答しました。

「今後も実施してほしいか、他者へおすすめできるか」という問いには、「新しく

<p>実施後、先生から見て児童たちの様子に変化があったか?</p> <p>自然に興味を持ったのか、まっすぐな目やどんぐりを拾って帰ってきた子がいた。</p> <p>普段気にとめないものも、自然のものに目を輝かせている。散歩などでも、今更とまた違った気持で自然を眺めているように思えます。</p> <p>改善してほしい点、アドバイス等</p> <p>理由: 保護者と一緒に参加してあげれば、楽しみが増えると思います。</p> <p>木工製作の前の座り、お話を聞く時間成長が速いので、作業場が狭いので、お話を聞く時間をもう少し長くしてほしい。</p>

入所する子供たちにも是非体験させたい」と嬉しいお言葉をいただきました。

また、後日「子供たちの様子に変化が見られたか」と伺ったところ、「自然の物に興味を持ったのか、マツボックリやどんぐりを拾ってくる子供がいた」「普段気にとめない自然の物に目を輝かせている」といった回答をいただきました。

図-3 アンケート回答

また、「改善してほしい点・アドバイス」があるか伺うと、「保護者も参加してもらいたい」「動物クイズの時間、木工教室の説明が長い」「体を動かす機会があると良かった」という意見をいただき、対象者によってより細かく内容を変えていく必要があることが分かりました。(図-3)

4. 考察

森林に興味を持つきっかけ作りについては、実施後のアンケート結果からみても児童にとって非常に好評な結果となり、有効な取り組みとなったのではないかと思います。一方で、「森に行ってみたみたいだ」という感想が有りながらも、実際に行きたくなかったと答えた児童は全体の60%であること、さらに木工教室の人気が高いことから森林の再現方法の見直しや映像の改善をするなど、バーチャル体験にもっと力を入れることで、より森林への興味を促すことができるのではと考えます。

また興味を持ち続けてもらえたかどうかに関しては、実施後に行った保育士、先生へのアンケートで変化が見られた旨の回答をいただいております、児童が興味を持ち続けていると感じています。

よって取り組みとしては、一定の成果を得ることができたと考えます。

5. 今後の展望

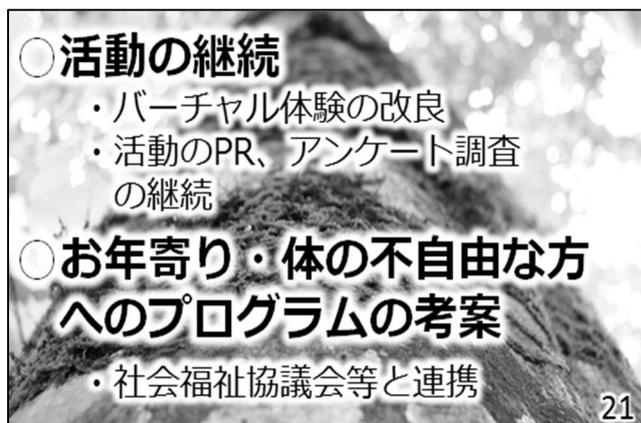


図-4 今後の展望

この2年間子供向けに新しい取り組みを実施したことで、引き出しが増え活動の幅を広げることができました。これから「活動を継続」していく上で、バーチャル森林浴の再現方法や映像の追加などの改良を加え、よりよい取り組みとなるよう工夫していきます。活動のPRやアンケート調査も継続して取り組み、需要の把握や改善点を見つけながら取り組んでいきます。

また児童の祖父母も呼んで森林教室を実施するなど対象を除々に広げ、お年寄りや体の不自由な方へのプログラムも検討するため、社会福祉協議会への登録やほかの団体との連携をとりながら目的の達成へ向け活動していきます。(図-4)

これからも「人の役に立つおもしろいこと」をモットーにメンバー全員でアイデアを出し合い、ゆっくりと確実に歩を進めていきます。

※協力：津軽白神森林生態系保全センター

(センサーカメラ映像提供)